2015年トレンド予測

進学領域

まだ、ここにない、出会い。
RECRUIT

進学領域における2015年予測

キーワード

「仕事か家庭か」ではなく
「仕事も家庭も」あきらめない女子高生

ロンキャリ女子

・結婚、出産しても、ずっと長く働き続けたい＝ロングキャリアを志向する女子高生が、専業主婦志向の２倍となり、経年でも増加している。

・親世代の「仕事か家庭か」（＝ＯＲキャリア）の選択ではなく、「仕事も家庭も」（＝ＡＮＤキャリア）充実させたいという前向きな志向である。

・ロンキャリ女子の増加背景には下記4点がある。

①母親世代の就業経験（雇用機会均等法世代は仕事or家庭の二択）

②「共働き世帯数」が「専業主婦世帯数」を逆転した時代に出生＝「雇均ジュニア」

③社会的後押し（政府主導の女性の活躍推進など）

④大学での女子キャリア支援制度の整備

ロンキャリ女子とは？

ロンキャリ女子とは、仕事も家庭もあきらめず、
前向きに長いキャリアを重ねていきたいと考える女子高校生

寿女子

結婚・出産したら
専業主婦になりたい
（寿退社）

仕事か家庭か
（ＯＲキャリア）

短大や人文系、
家政系等に進学
（狭い選択肢）

４つの背景

★働くことへの意欲醸成
①母親世代の就業経験
→雇用機会均等法世代は
仕事or家庭の2択

②「共働き世帯数」が「専業主婦世帯数」を逆転した時代に出生
→「雇均ジュニア」

＋

★環境・制度の整備
③社会的後押し
→政府主導の女性の活躍推進など

④大学での女子キャリア支援制度の整備

ロンキャリ女子

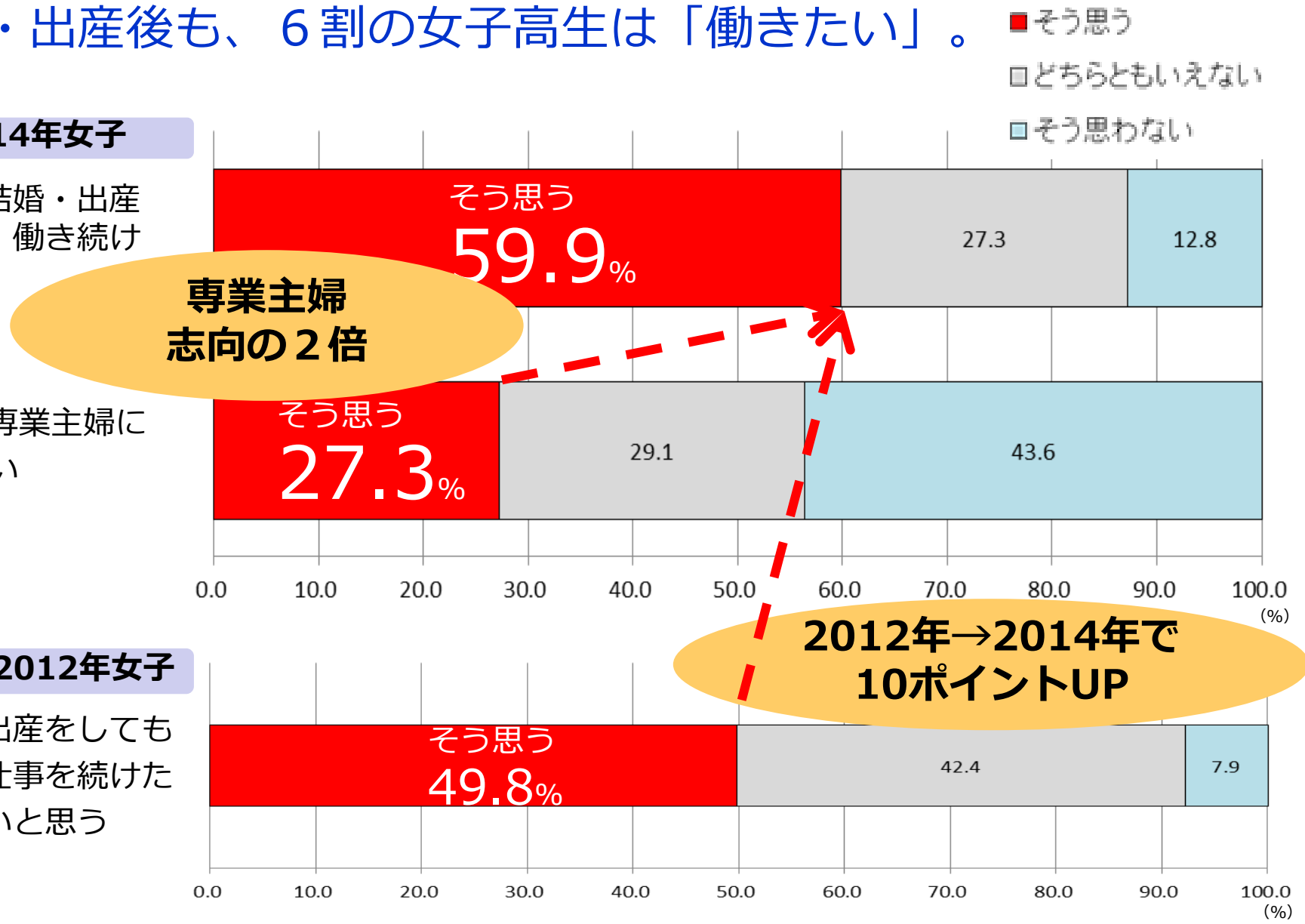
**結婚・出産しても
働き続けたい**

**仕事も家庭も
（ＡＮＤキャリア）**

**従来、男子が多かった
分野にも進学
（広い選択肢）**

ロンキャリ女子のキャリア観①結婚・出産後のキャリア意向

結婚・出産後も、６割の女子高生は「働きたい」。



出典：リクルート進学総研「高校生価値意識調査」/2014年：N＝1,438、2012年：N＝1,239

ロンキャリ女子のキャリア観②働き続けたい理由

働き続けたい理由は、「仕事にやりがいを感じられそうだから」

■結婚・出産しても働き続けたい理由

女子

1位	仕事にやりがいを感じられそうだから	54.3%
2位	経済的に自立しておきたいから	50.6%
3位	夫婦どちらかの収入だけでは 生活することが難しそうだから	44.8%
4位	家庭だけでなく、社会とのつながりを 持ち続けたいから	40.3%
5位	自分で自由に使えるお小遣いが 欲しいから	40.0%

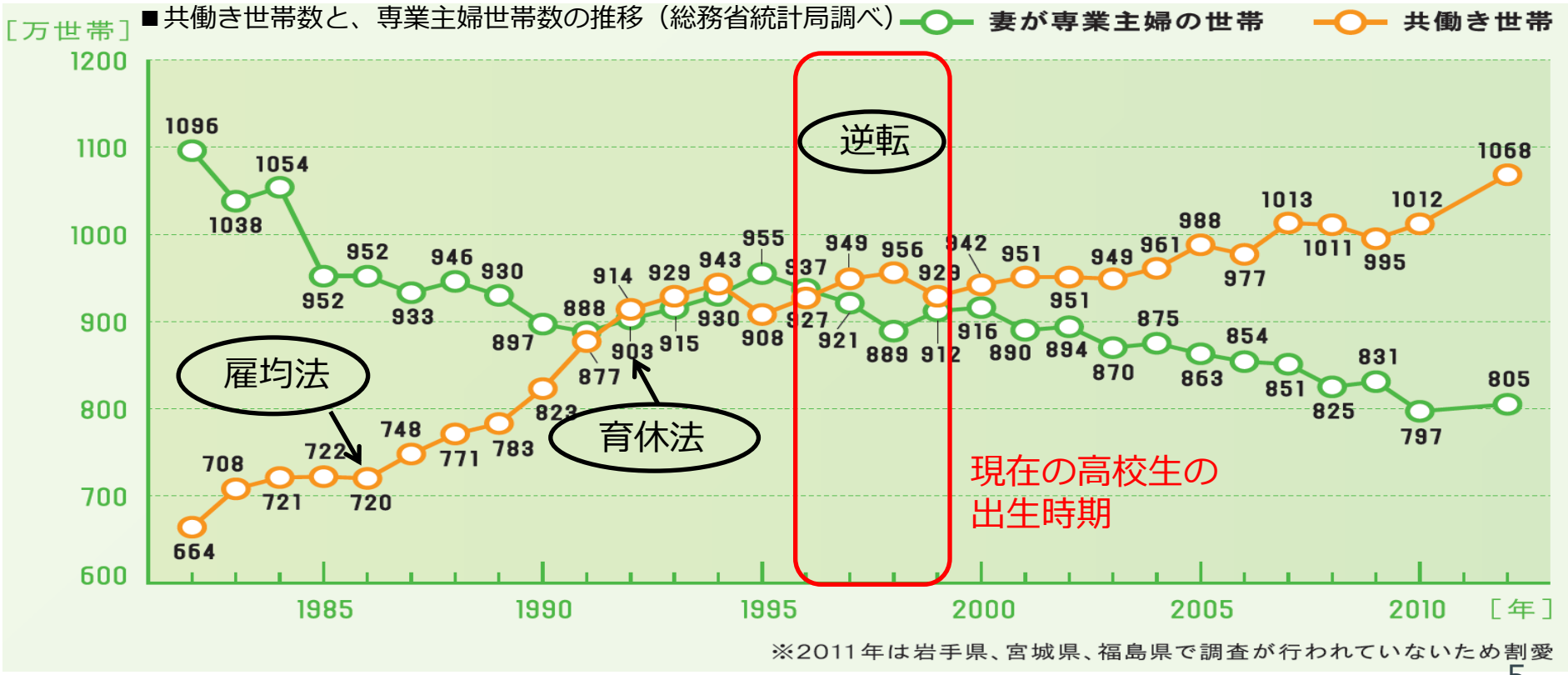
出典：リクルート進学総研「高校生価値意識調査2014」/N＝1,438

ロンキャリ女子の背景①

現在の高校生は、男女雇用機会均等法施行後に社会に出た親をもつ“雇均ジュニア”

①母親世代
1986年：男女雇用機会均等法施行
1992年：育児休業法施行
→仕事or家庭の2択

②高校生自身
「共働き世帯数」が「専業主婦世帯数」を逆転した時代に出生
→女性が働くことが身近に

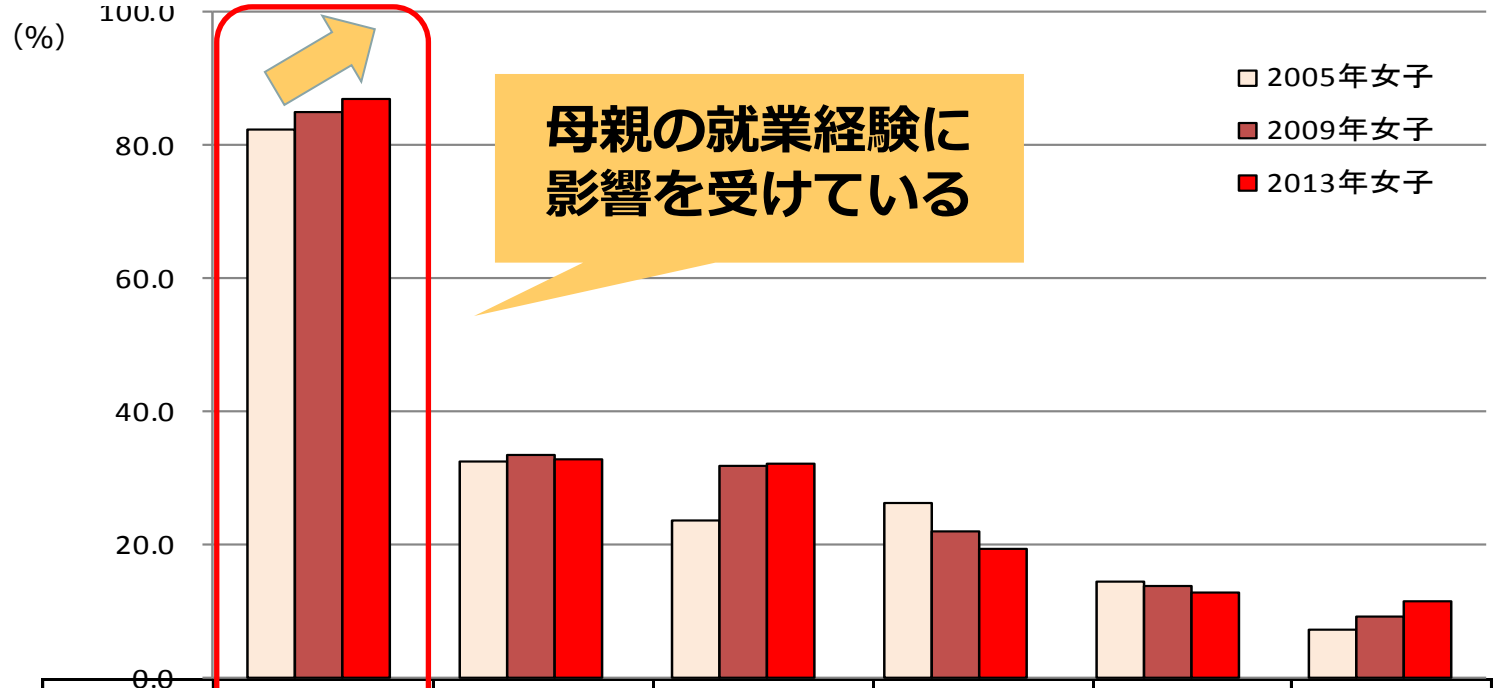


※2011年は岩手県、宮城県、福島県で調査が行われていないため割愛

ロンキャリ女子の背景②

女子高生の進路についての相談相手は、母親の影響が大きく、
経年でも上昇傾向にある。

■女子高生が進路について相談する相手



	サンプル数	母親	父親	高校の先生の担任	兄姉	先輩	塾の先生・予備校
2013年女子	1074	86.9	32.8	32.1	19.2	12.8	11.5
2009年女子	826	85.0	33.5	31.7	21.9	13.8	9.0
2005年女子	829	82.5	32.3	23.4	26.3	14.2	7.0

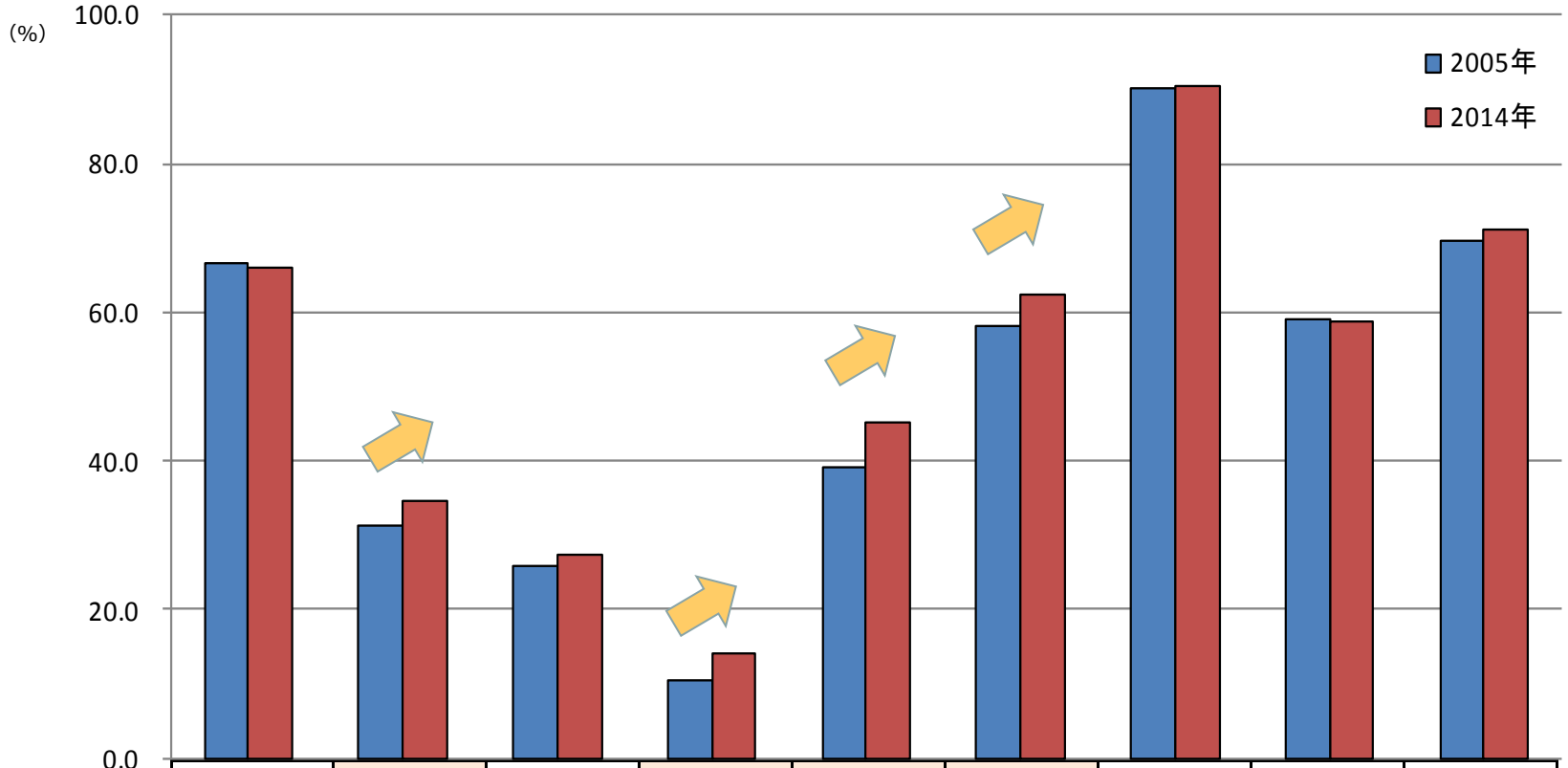
出典：一般社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会・リクルート合同調査「高校生と保護者の進路に関する意識調査」

ロンキャリ女子増加の兆し①大学の入学者分野

従来、男子が多かった分野においても、
女子の入学者シェアが高まっている（→選択肢の拡大）

■大学入学者に対する女子のシェア（学問分野別／2005年と2014年）

※ピンクの網がけはそれぞれ3ポイント以上増加している項目



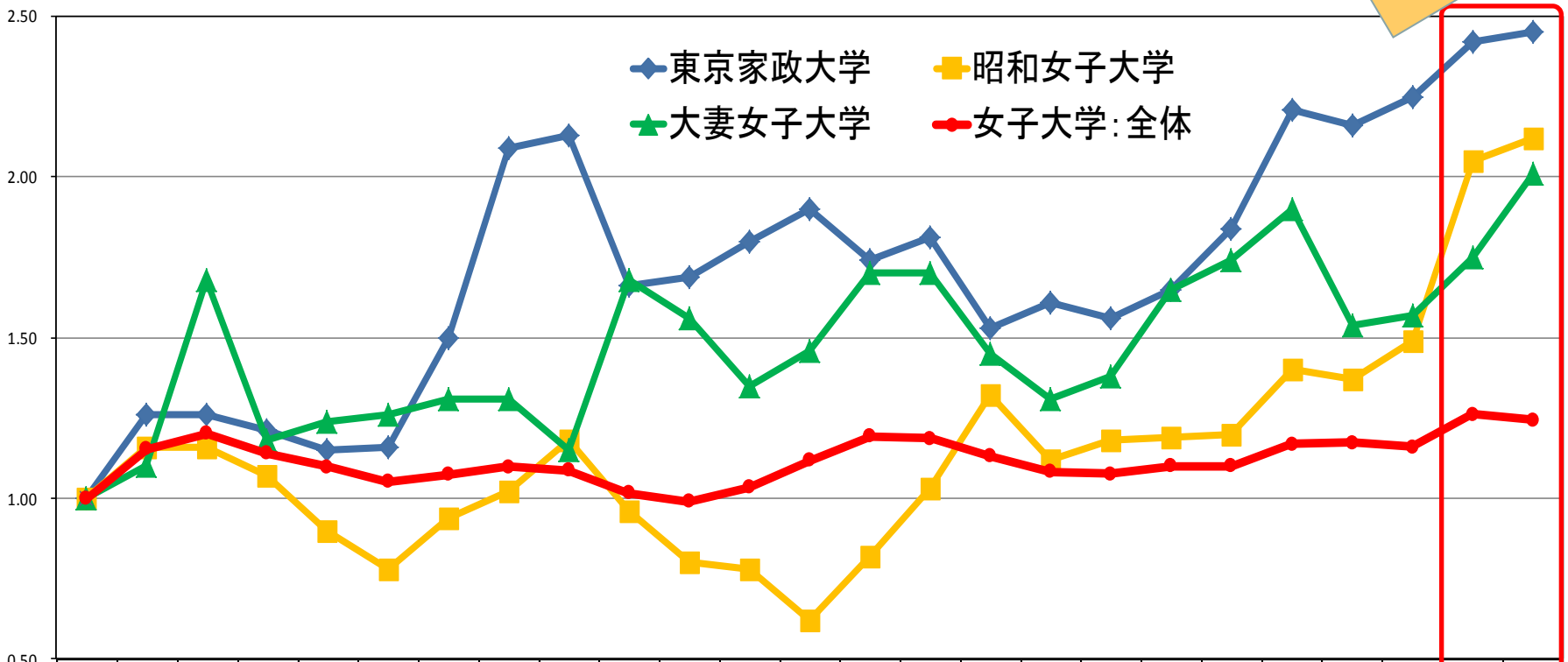
	人文科学	社会科学	理学	工学	農学	保健	家政	教育	芸術
2014年	66.0	34.7	27.3	14.0	45.1	62.3	90.5	58.8	71.0
2005年	66.6	31.4	25.9	10.6	39.2	58.2	90.1	59.2	69.5
2014年−2005年	−0.6	3.3	1.4	3.4	5.9	4.1	0.4	−0.4	1.5

出典：文部科学省「学校基本調査」

ロンキャリ女子増加の兆し②女子大の動き

女子大でも、「資格＋実学系群」の大学が ここ１～２年で志願者を伸ばしている

■女子大の志願者の推移（1990年を1.0とした場合の志願者の指数）



	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
東京家政大学	1.00	1.26	1.26	1.21	1.15	1.16	1.50	2.09	2.13	1.66	1.69	1.80	1.90	1.74	1.81	1.53	1.61	1.56	1.65	1.84	2.21	2.16	2.25	2.42	2.45
昭和女子大学	1.00	1.16	1.16	1.07	0.90	0.78	0.94	1.02	1.18	0.96	0.80	0.78	0.62	0.82	1.03	1.32	1.12	1.18	1.19	1.20	1.40	1.37	1.49	2.05	2.12
大妻女子大学	1.00	1.10	1.68	1.18	1.24	1.26	1.31	1.31	1.15	1.68	1.56	1.35	1.46	1.70	1.70	1.45	1.31	1.38	1.65	1.74	1.90	1.54	1.57	1.75	2.01
女子大学全体	1.00	1.15	1.20	1.14	1.10	1.05	1.07	1.10	1.09	1.02	0.99	1.03	1.12	1.19	1.19	1.13	1.08	1.08	1.10	1.10	1.17	1.17	1.16	1.26	1.24

出典：リクルート進学総研「入試実態調査2014」/N=737

大学のロンキャリ支援：事例①昭和女子大学

OG以外の女性社会人にもキャリア相談。ロールモデルがキャンパス内に。

・2011年1月～社会人メンター制度
学生と信頼できる社会人が直接出会い、卒業後のキャリアプランやライフスタイルについて相談できる機会を大学が提供する制度。
→社会人メンター登録人数：340人(OG率13%)
→利用学生数：3,711名

※2014年上期現在。利用学生数は制度開始の2011年1月からの延べ人数

・学長は「女性の品格」の坂東眞理子学長

■制度を利用した学生の声

長期で働くために何をすべきかを相談。
親でも友達でもない、ナナメの関係を通じて見えてきた「軸」
（管理栄養学科４年　濱田凪沙さん）

・**母親が専業主婦で、手に職をつけたほうがいいと言われて**育った。収入面のみでなく、**社会とつながる**ためにも、結婚・出産しても仕事はずっと続けたい。
・社会人との面談を8回受けた。ニュースで貧困女子や失業率の話などを聞くので、「**長期で働くために何をすればよいのか**」を相談した。
・親でも友達でもない、多様なキャリアをもつ女性社会人の話を聞く中で、**自分が本当にやりたい軸を発見**でき、就職活動にも自信を持って臨めた。

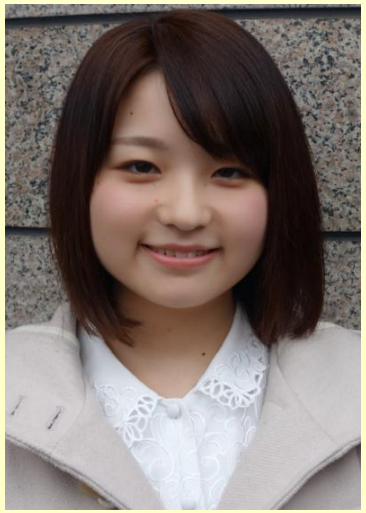
大学のロンキャリ支援：事例②東京家政大学

大学入学前～就職活動～卒業後まで、女性の生涯キャリアを支援。

・**2000年～進路支援センター**
入学時～卒業後までをトータルにサポート。31名のアドバイザーが就職支援、編入学・進学支援を実施。生涯学習センターや同窓会と連携し、卒業生の再就職支援も行う。

・キャンパス内に保育施設やクリニック、同窓会本部なども併設し、女性の生涯キャリアを支援する。

■制度を利用した学生の声



資格を取るだけでなく、どう活かすかが大事。
TOEICにも挑戦して、いろんなフィールドで活躍したい。

（栄養学科管理栄養士専攻３年　古川詩菜さん）

・**母親が幼稚園教諭の資格を持ちながら、働くことができず、資格は活かすことが大事**と言われてきた。大学まで出て結婚してやめるなんてもったいない。
・進路支援センターでは就職活動の相談のほか、インターンシップも紹介してもらった。食品会社で働く女性から、**キャリアの広げ方にもいろいろある**んだと教えられた。
・今一番頑張っているのはTOEIC。食品業界はグローバル化も進んでいるので、たくさん活躍できるように今から英語も頑張りたい。

ロンキャリ支援：事例③総合大学や企業での動き

今後も取り組み予定があるほか、
総合大学や企業にもロンキャリ女子の支援制度が広がっている。

■女子大における今後の動き

椙山女学園大学

・2014年～「アクションプラン2014」
→女性の生涯キャリアを支援
「女性の一生を支援する大学」という意志のもと、
大学教育からシニア向け教育まで一生の学びを提供する体制を整備

■国公立・総合大学での取り組み

秋田大学

・2011年～「女子学生のための就職・キャリア形成に関する相談窓口」開設

■企業での取り組み

トヨタ自動車

・2014年～「トヨタ女性技術者育成基金」
→理系専攻の女子学生数の増加や育成が目的。
→愛知県内の高校に女性技術者を派遣してロールモデルを提示したり、
大学での女子学生向けキャリア相談などを実施予定。